



〈自分（たち）でつくるみんなの学校 ～日本一美しい学校を目指して～〉

成美っ子

学校だより 令和5年度No.6

自分の体に関心をもって、 よりよい生活を実践できる子供たちに

養護教諭 田中 さおり

私が養護教諭の職に就いてから、20年以上が経ちました。

私が新規採用の頃の子供たちの健康課題と言えば、むし歯でしたが、その後、予防歯科の意識が高まり、子供たちのむし歯は随分と減りました。子供たちの生活環境は大きく変わり、今は、携帯電話やスマートフォンの普及で、生活習慣の乱れ、低視力者やアレルギー疾患者の増加、心の健康問題等、子供たちの健康課題も多種多様となり、保健室での対応も難しくなってきたと感じています。

このように、健康課題は随分と変わりましたが、私が新規採用当初からモットーにしていることがあります。それは、「自分の体に関心をもって、よりよい生活を実践できる子供を育てたい」という思いです。それは、汚れた傷口を洗わないまま来室する子供、最終排便がいつで、どんな便が出たのかを覚えていない子供、何となく担任に促されて保健室に来室する子供等、基本的な知識が身に付いていなかったり、自分の体のことを自分事として捉えていなかったりする子供が多かったからです。残念ながら、この実態は昔も今もあまり変わらないと感じています。

そして、このような状況は、成美っ子も例外ではありません。そこで、この8月の身体測定の折に、1～3年生の子供たちに、応急処置の必要性を知らせようと、クイズを出しました。

みなさん、想像してみてください。

男の子が、グラウンドで鬼ごっこをして遊んでいました。途中で、男の子は転んでしまいました。膝からは、血が出ています。さて、男の子は、まず何をしたらよいでしょう。

- ① すぐに保健室に行って、手当てをしてもらう。
- ② 水道の水できれいに洗ってから、保健室で手当てをしてもらう。



出題の後、「①かな？いつも、すぐに保健室に行くよ」「②だよ。だって傷口が、砂で汚れているかもしれないから」「傷口を洗わないと、ばい菌が入るよ」等と、子供たちは、これまでの生活経験や知識から、活発に意見を交わしました。答えは、もちろん②です。しかし、成美っ子の実態として、すぐに保健室に行き、手当を受けようとする子供が多いことを子供たちに知らせると、自分の姿と重なるのか、すぐに納得した様子でした。そこで、流水で汚れを洗い流すことで、傷の治りがよくなったり、病気を防いだりすることができることを知らせ、今後の生活に生かしてほしいと指導しました。それから数日後、けがをした1年生が、傷口をしっかりと洗ってから来室しました。「ちゃんとできたね」と言うと、うれしそうに頷きました。

子供たちには、小学校、中学校、高校で培われる学びを生きる糧として、健康的な生活を送ることができる人、自分や周りの人のことを大切にできる人になってほしいと心から望んでいます。そして、子供たちが自分の体に関心をもち、健康的な生活行動を実践していくためには、生活の基盤となる家庭や子供たちを取り巻く多くの方々の、理解や協力が不可欠です。今後も、子供たちのために、温かいご支援をよろしくお願いします。